



四
 十
 集
 十
 末

ケ 5
68
32





儀公全集末書上卷之十

- 一 敷地もろろ山乃乃徳十一ヶ条あり
- 二 山中より押入地法三ヶ條あり
- 三 山中の押入
- 四 山乃乃徳の圖
- 五 敷地始り乃乃山中より乃乃取れて人取地にて
先りてはく人取り乃乃乃乃
- 六 地取の要十四ヶ条あり
- 七 地取の要十六ヶ条あり

新古今和歌集上巻之十一

七

- 一 物分人氏者名しつひ
- 二 大物分人中物分人小物分人三位乃りつひ小物分人のつひやうれ番并道足將追佐の事
- 三 繫物分人油物分人巡見物分人并毎れ物分人相考の物見敵とよ引物分人のつひ同圖
- 四 御大物分人下の士大物分人將大物分人追佐の頭とて不取つて不計或切二十九ヶ條乃り
- 五 物中物分人よか三の刀人並つて入る事
- 六 物分人よか又つ乃りつひと刀人定る候の事 竹俣

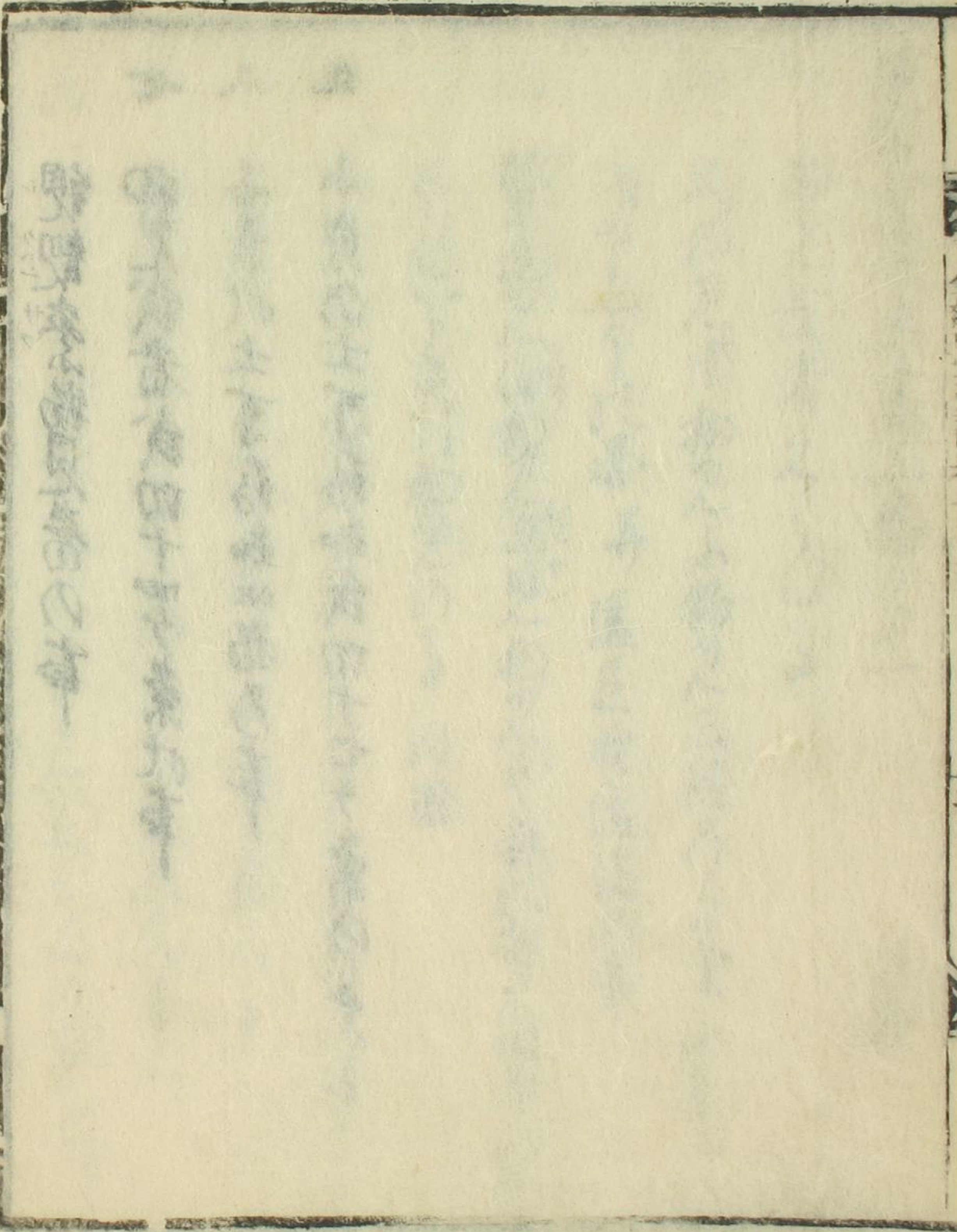
観覧家物見番の事

- 七 物分人氏者或四十四ヶ條の事
- 八 小物分人氏者或三十九ヶ條の事
- 九 小物分人の士可取知或四十七ヶ條の事

信玄全集末書上巻之十

戦地

○一敵地をさうさう山を乃徳十一ヶ条のさ
 一敵國へさうさうさあ山をさうさうさうさうさ
 はそ徳多さうさう損少さうさう其子細さ
 第一さうさう敵地をさうさう山を乃徳十一ヶ条の地
 利多さうさうさあ山をさうさうさうさうさうさ
 第二山をさうさうさあ山をさうさうさうさうさ
 第三山をさうさうさあ山をさうさうさうさうさ
 わさうさうさうさ



中四又をもちて他(働かへ)一平の百姓山をなす
城りもさくを死山へたりる所の神主志とらるる
身五か人救とて大軍のあへり入るも山とを
よ付てとをさくはなす

身六肩軍の時も引とゆよをさくはりあひ
身七敵を地戦よても陰程の地城とてを人救
る所外ふゆへよを戦城つけとらるる

身八合戦勝負の仕やう或をを画と身方へつけ
あつとをらよも或を圍中のあへり城とて又ハ
加勢とてよみあもそののり中とて

身九除異城とるよも所本多とてくへり方よと
その利城は敵よの利城とてあつと中水のよ
わり

身十山とてとりよとそれの敵地の地下人百姓と
まくより刃とをそれとて大よとて

如影のさくまをさかよはるよたわとて中
へは除城をゆよと勤毎とて道城はくを死
まとく人ぐり敵を二千よはつてらるるよと身方
の城(は)うごらるる遠列とてわあつた東三
河東英濃飛騨越中すても山よとてとり
身十一大よ勝利を身とて平地城敵圍(働
を)へ今月敵を公の尾列おけたとてあつて付

死のこゝろ一と云くやう一と思ふもくはく
と云ひ信玄の遠列を大津表へたつてあつて
張り河も引除くおつて松をれつりあつて
らそれより所貴波そつてつる宮口をそつて
たつてつる久野越川までつてつた
あり

皆土敵あへみされ今一と云た茶臼右おゆといつて
わらたの道一してつてつて右を順一と云つて
但敵一と云つてつてつてつてつてつてつて

○二山中より押入他法三ヶ條乃事

一甲別女故柏故ちつてつてつてつてつてつて

一ツ二ツの懸あるれのかやうありつてつてつて
ゆへへつてつてつて

二東夷遠るものつてつてつてつてつてつて
用てつてつてつてつてつてつてつてつて

三十里れみちつてつてつてつてつてつてつて
ゆへつてつてつてつてつてつてつてつて

少つてつてつてつてつてつて

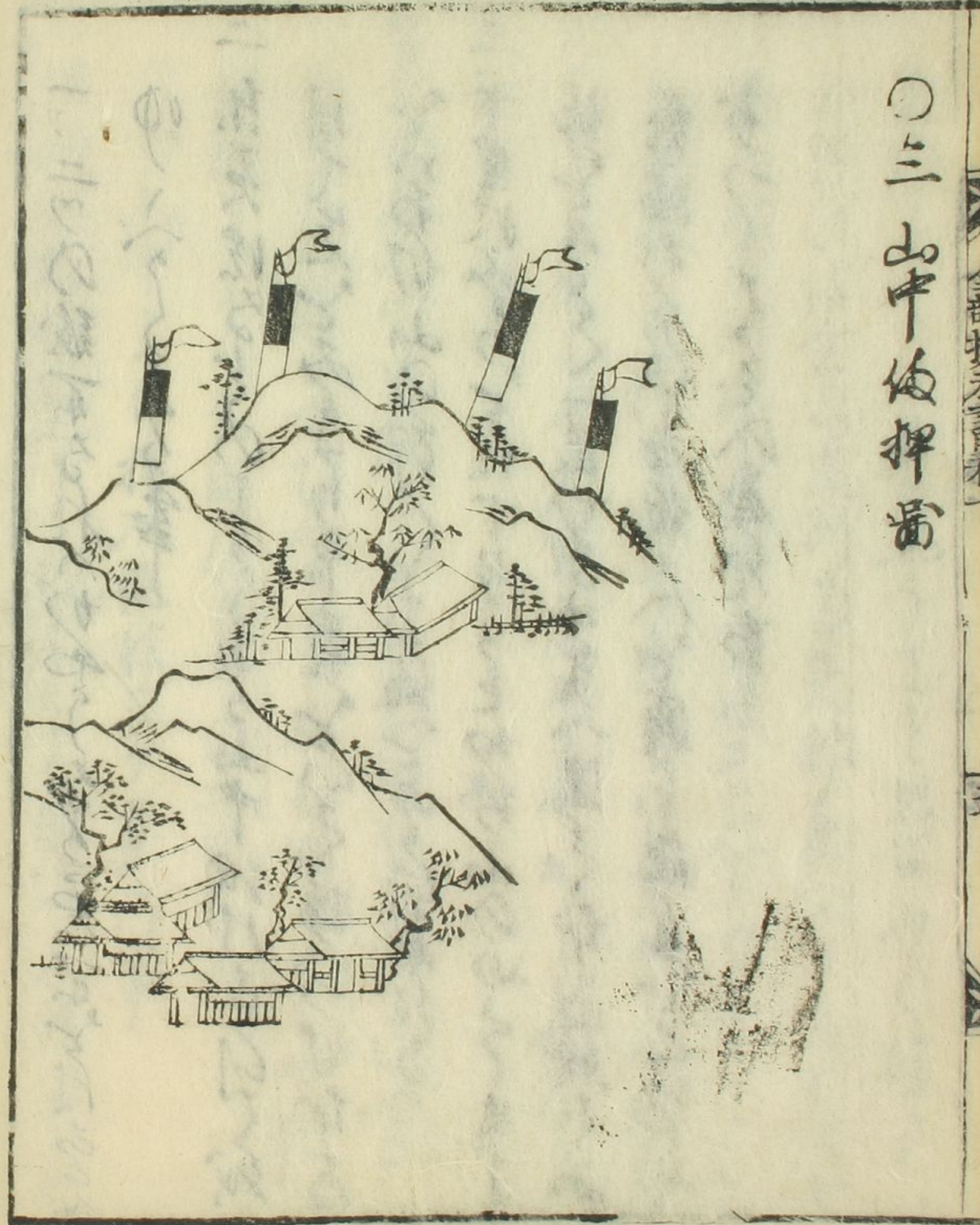
○川 野一 谷 池

余少天書

五



○月 廿二日



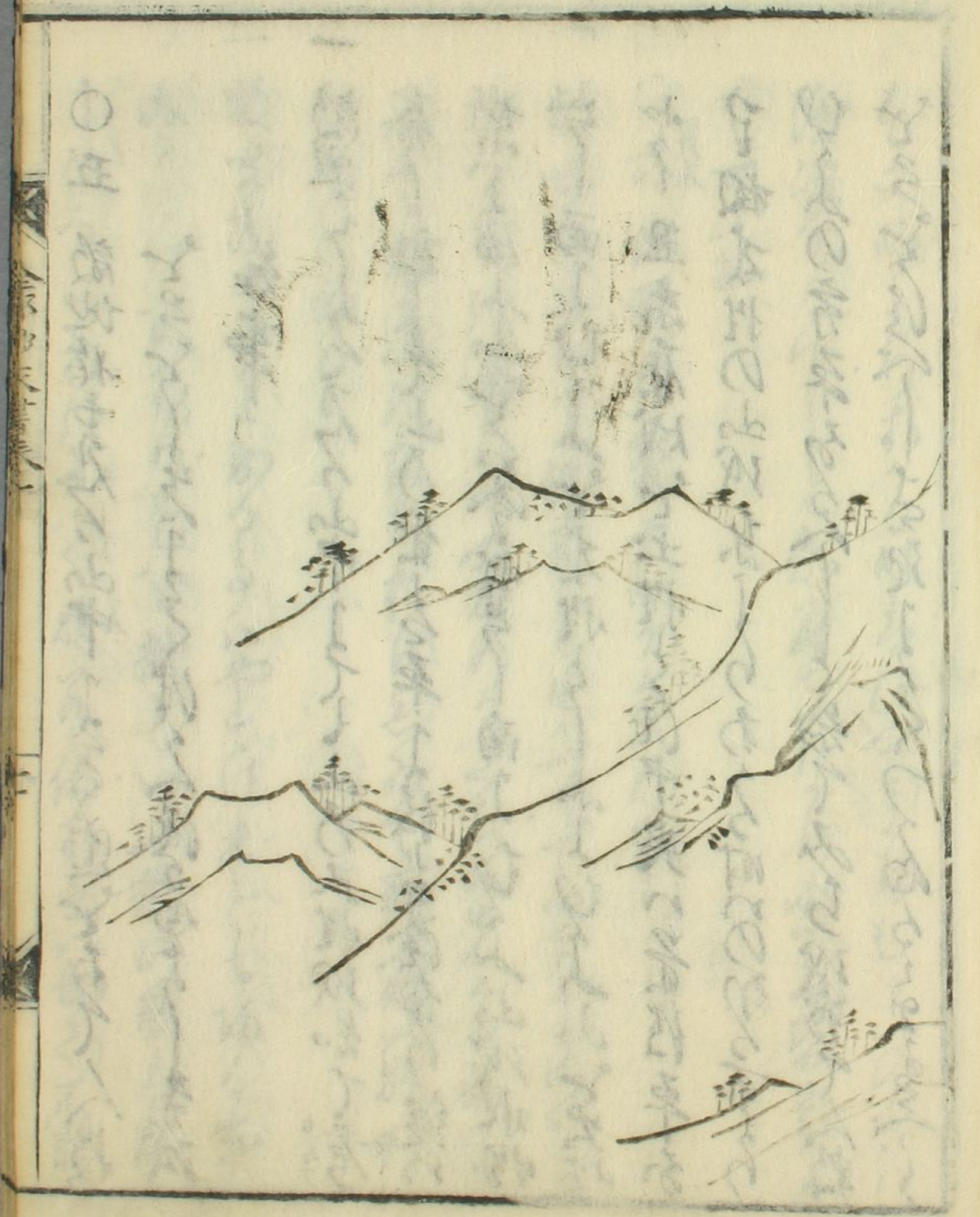
○三山中後押番

金吾抄書卷一

○日 山 景 圖



○日 山 景 圖



○五 敵地作らるる山中より道とあて人及
と云ふこととていふは久しき道なり

知事

一 敵地よりあてらるる山中にて山乃又性成知て考
るる一帯にて山乃平なる平一は故に陰をり縦の
東より山とていふ性なり南より山とて水性
より西より山とて木性なり北より山とて火性
なり丑未辰戌と土性なり中央は平なる平なる
に木性の山成東よりあてらるる時のあてらるる
ひよりの方平なるなりと知てみれば成りて人教
と云ふこととていふは久しき道なり

を又西よりあてらるる時をいふ方よりむすのなる
陰祖なるなりと知て厚なるなり余を皆是
て可し知

○六 地形乃要十四ヶ条乃事

一 敵味方とていふは味方自はあてて四方よりあて
所る有て通といふは趣のくさるる先なる陽より
吾て狼道成にあらねりともあてて戦ふ時の利
わりと云ふ

二 敵味方とていふは味方自はあてて四方よりあて
所る有て通といふは趣のくさるる先なる陽より
吾て狼道成にあらねりともあてて戦ふ時の利
わりと云ふ

三 敵味方とていふは味方自はあてて四方よりあて
所る有て通といふは趣のくさるる先なる陽より
吾て狼道成にあらねりともあてて戦ふ時の利
わりと云ふ

三 我亦くも利ありに敵亦くも利ありはるる乃
地形ありけりある地形と云ふといふは乃のくも
の敵もれと利をといふとも我亦くも利ありと云
是亦くも利ありと云ふは亦くも利ありと云
は利ありと云ふ

四 敵方山の形若乃中のみありも人も我亦くも
ありて押し入事するひくも地形ありは我
隘しりも隘の形ありは先居て必^三隘を以て
たり一敵するの居る隘は是よりするれも
は是之と云ふ

又 山けりくくくく又若くも山國の地ありは
ありは隘隘といふ隘の形は我先居る隘は
約敵の隘先居る隘は是より向後と云ふ

六 敵國よりくくくく入味方の山地と云ふは
事甚だしくありあると遠地と云ふは是
秋のくくくくの地形といふあり遠形勢均雅
以難戦而不利と云ふ

七 我國地々或る敵の境に入事するは是より
うらるるくくくくは是よりは是より
一は地形ありこれと敵地或る地形は是より
法率らるるくくくく一は是よりは是より

可利の地といふあり

散地謂自戰其地人心易散謂之散地ト云

輕地者人心輕返之地也入敵國境未深而吾

城郭未遠士卒心易於思返故謂之輕地ト云

八一れは地といふ味方一利といふ敵は地といふ

敵利といふ身の地形あり是攻奪地といふ

他則無攻ト云

九地形平よりくかられより下なく然引り地か

ふ地形ありこれと交地といふ交地則無絶

或吾將謹其守ト云

一四方より通路たわりよりく敵味方より為

やと身地形ありこれと衝地ト云 四通八達之

所有接則成無接則敗必其當合其交與之國以

為應接ト云

十敵國へつりより基よりく味方の國よりく十死

一守の地といふ名付て重地といふあり重地則掠ト云

十一りり山路或は河或は深淵是入るべき地は

く是場のみあり交地あり是と名付りて把地

といふ把地といふ無舎ト云

十二敵地へもつりより入道せりてより入る

りゆあり地形あり是と名付りて圍地といふ

圍地則謀ト云

古敵あつてくはくく入みこのおとさるれ敵ふ
前はと切こまれ糧たそそくま敵はは地利は
味方よりはその利とくくあひさしむるも水さ
く又引たりも使るる地形と死地といふあり
死地といふはあそく不活又云疾戦則可以存不
戦則必亡云云

○七 地形の名十又ヶ條の事

- 一 平陸 平易の地あり 二 付澤 三 丘陵 土高曰紅大隼曰陵
- 四 隄防 五 絶洞 六 天井
- 七 天穿 八 天羅 九 天陷
- 十 天隙 十一 陰 十二 阻

十三 諸會

十四 崇

十五 澤

異本 戦地 私云戦地の勝負の史スル地也

- 遁地 掛地 支地 隘地 陰地 遠地 散地
- 輕地 爭地 交地 衢地 重地 圯地
- 圍地 死地 平地 付澤 丘陵 隄防
- 絶洞 天井 天穿 天羅 天隙 敵地
- 入山寄コヲ用 山中道コヲ當コル作法 山中押入

作法

云地形の要十四ヶ条并地形の名十又ヶ
条戦地と号して勝負の成敗をらるの地あり
と是等の要を八事と号して保塞あり

しゆんと例の程謀志のよとゆとりたあり
孫子よ委細論とらるるれいしや切とるに
その上日なりかたなりけの地形もれ也

戦地終

信玄全集末書卷十終

信玄全集末書上巻之十

付候

○一 初見武者あしむ事

一 初見は指はしあふ武士もたらく合戦場故
ら少くともさう義の正理よりあはれ不^レ備
勇士の跡先あもたぬり義理をさし記を
くわうあり士を撰るなり武意場教らあり
とそ勸味方のけん切やう地形勝負らるる言悪
とみまらる事と不^レ知りのよは必^レ死をさるる
むちの代はと軍の四と違ふるさう一初初見
とつらと醫者の病人よ業とわらうさうと膝以と
つらうとぬいそ初見あり足押とけ敵の備く

と既と刀つらる同業あり焼焼の養生茶旅
久い痛志のちとみりかこ

○二大物見中物見小物見三匹のち小物見
る茶旅の番并道足將道徳の事

一 大物見とは越人教四百余の千と大あり六百
張の中個國のちありより二十分一と大なり
既ととつら足將道徳あり 右ととつら茶と
既ととつらとつらあり物見の中と物
見をとりつらあり

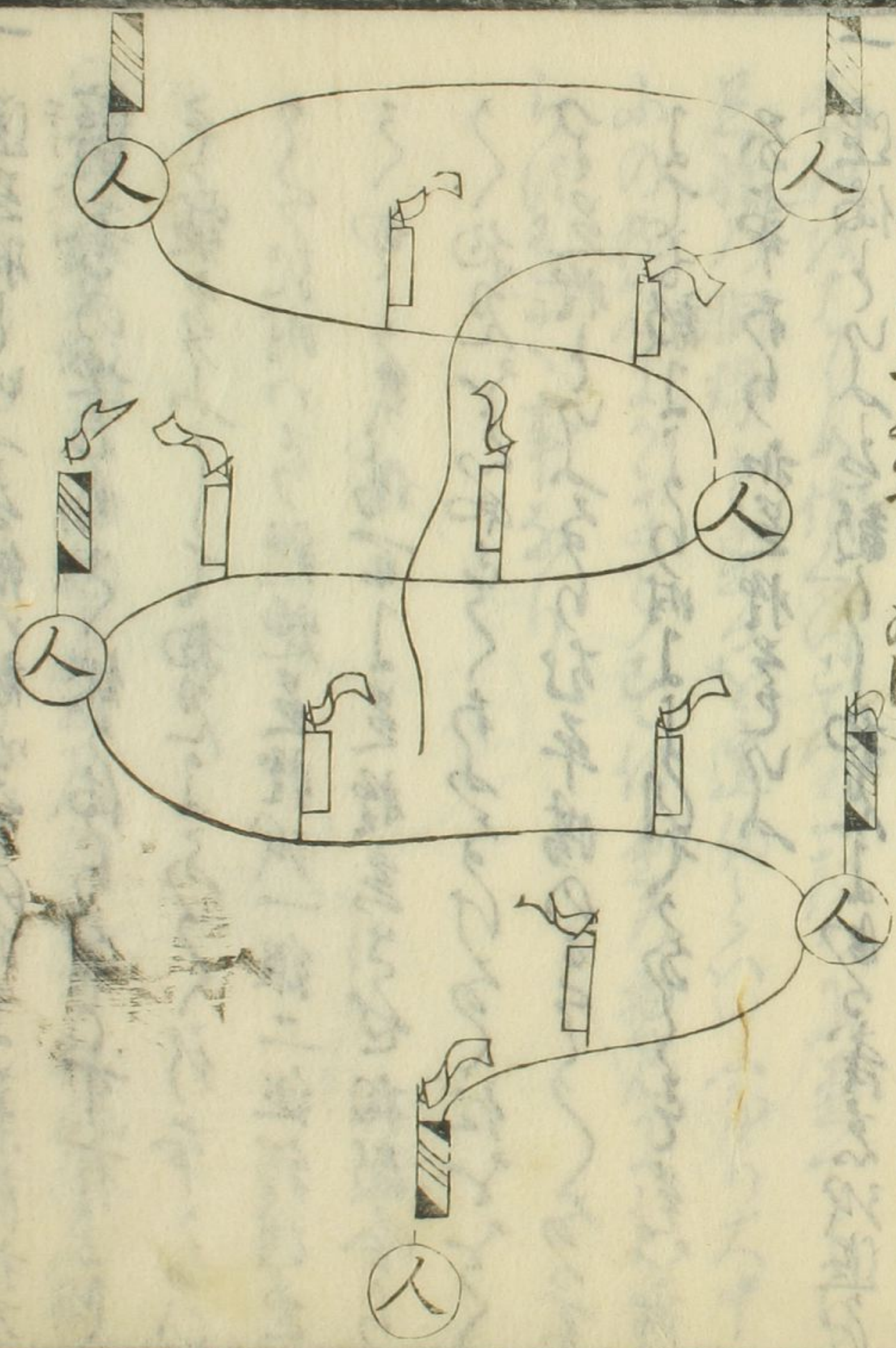
二 中物見といつら大物見の人数はのりといつら
長ありつら二十張四十張又十張とつらあり

人数としてつらと中物見といつらあり但人数は
つらと中物見とをさつらあり相大中の物見
の損益教多あり信玄とと通信とと對陣
此時武田方つら中物見といつら武田方つら
既とつら物見のあり他法甲別表とつらつらと
益あり物見つらと笑つら物見といつら士とと
ハ他法別表方并國との茶合ありつら撰判
と物見といつらつらつらとそ

三 小物見を二人物見といつら地勢の指子敵の徳屋
實と刀見とつらと十又張つらと指つらと事あり
四 方とつらとつら目とつらとつらとつらとつら

びくしてうゝ動年とらん目くく見るるる
くきとらありちららるるのるる
より事ありと

小物足馬糸作り汁圖



小物足馬糸作り汁圖

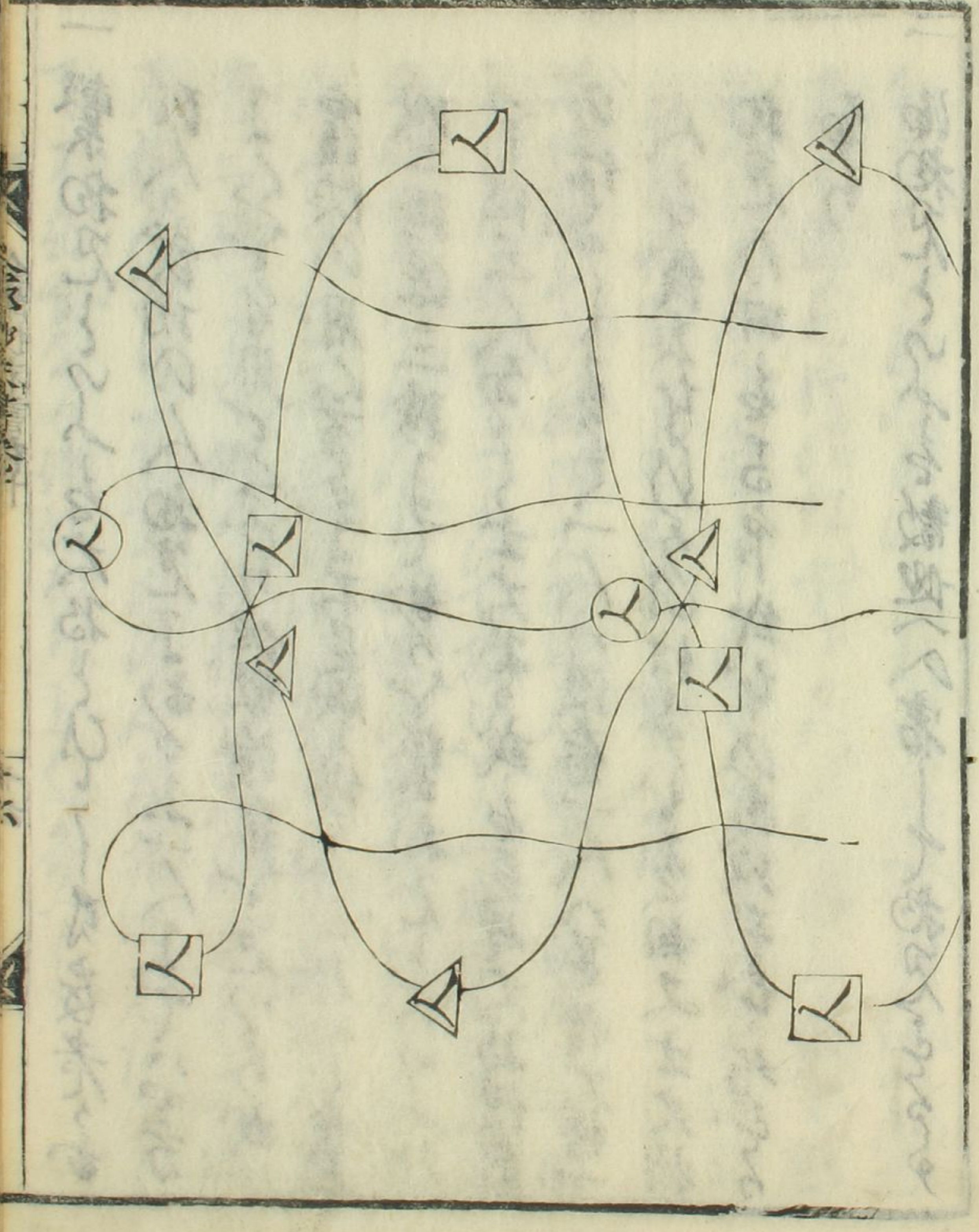
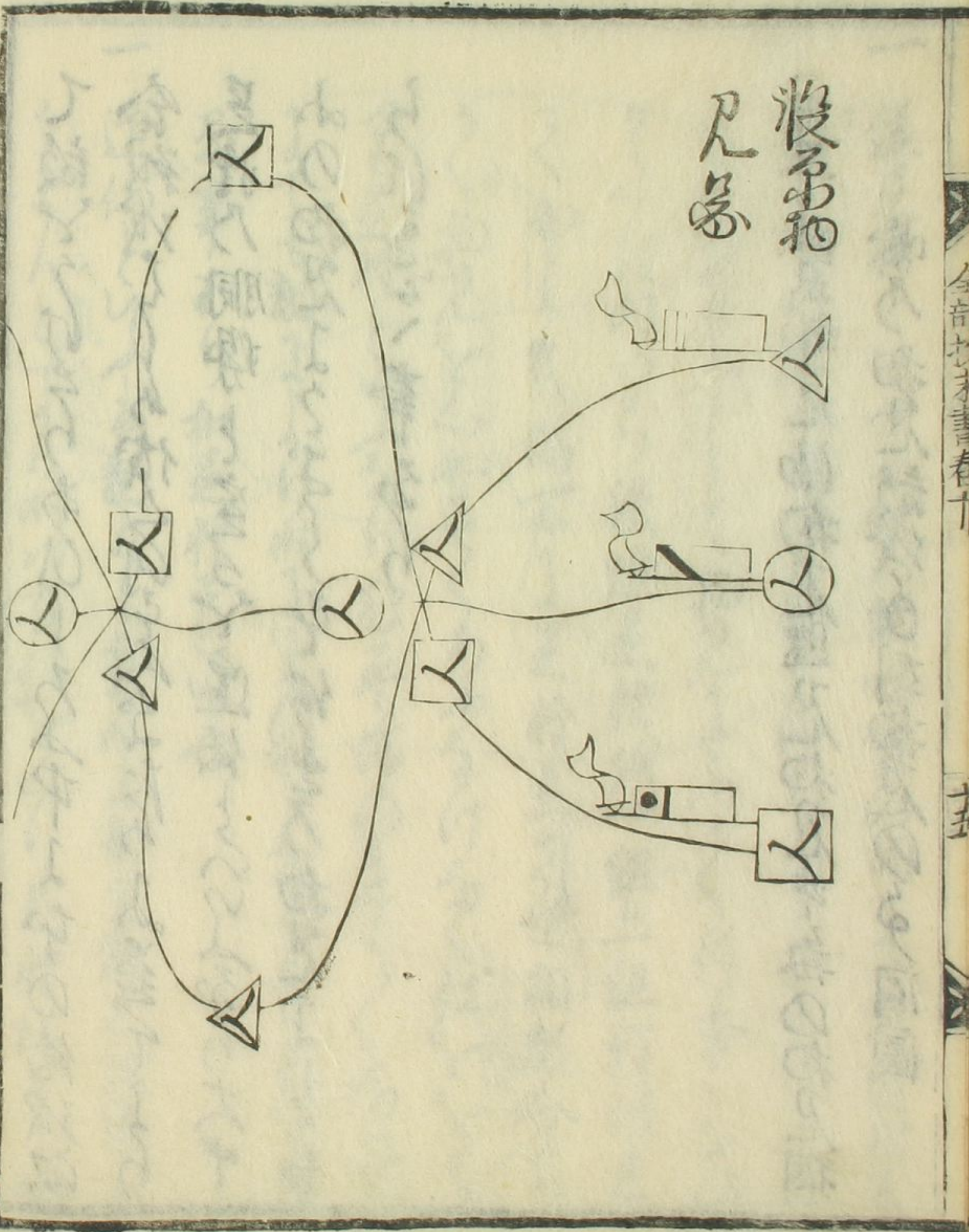
十三

一 道足将といふは船の敵味方の間へ葉蔭材木
 蔭蔭の地ありて伏し居りかた可有と
 そを敷きよして物見よふべく引奉るる
 ころに此所の鉄炮足将隊一組二組程は
 かくかくの場下へ足将をさせ相敵合ら
 しく物見といふはかくあつるけあく仕と
 ころ足将といふるるを平場のさうく
 しては敵よりの所へかくかくと
 事あり扣足将といふ

一 道後といふは敵り物見よむる
 ころとすの所の右れと
 て敵とうけそりあひし
 合戦はくめ伏し
 足将乃胴場と定るる
 小の物見ようごう
 らはま言へ事あり

○三 敷系物見泊物見巡り物見平毎の物見相
 當乃物見敵隊の引物見のり同圖

没系指
凡象



一 繫物見といふを大おとひとて又老るか
 取人々武功の人物見といふふ一人一人して四方
 一といふと自見といふから地取除難と見つらり或
 度伏の用心方より不足成し候て物見といふ或
 以二誘流三誘しそ物や繫物見といふの
 つと但三人ありし士大おつ或るは將大お使番
 の仕るものもよく一人の使番一人の是將大將一
 人を或るはなめり付仕るものも又士大將
 物見の時をまるく式々の内城をむかひたり
 あり

一 物見といふを敵地へ入者として物見といふ

あり是と申すものごとく心はへんはるる
 見よ是は物見仕やうとてわり候と
 以んはわやうきよといふとありされを遠
 ち有村里といふとあり事なり

一 敵敵遠きその時流大お巡見物見といふは
 一といふと候方より攻にといふ或は大方
 の将軍攻らんといふとせ場の番とあり
 治ふるは是より其の地はあり相又或は
 士二誘しとて敵乃持指と見射るは又巡
 見物見あり不案内の人を指巡見たり
 て不案内あり地法わりといふ毎へ

一 毎の相見乃事是る一 勢あり合戦を我
 組よりとくく 勇場然引る後りの見あふ
 攻とらよととくありしよ定るといふと時
 一よりしてかばいのお遠いよとく相るまのそれ
 一とく毎毎して合戦攻めく戦ひてくむら
 攻よ毎の相見とはいふるり但教多のよま
 一 ちの川乃相見とりの川にゆきいさすれあ
 め河所わられたとく一伏の聚あつ時相見よあ
 一 伏あつとく一よとくのよとく一はつ
 一 ころは輪とのく一をくお着攻とる儀あり
 一 又い敵わひよ田地わりの足の入り不入る

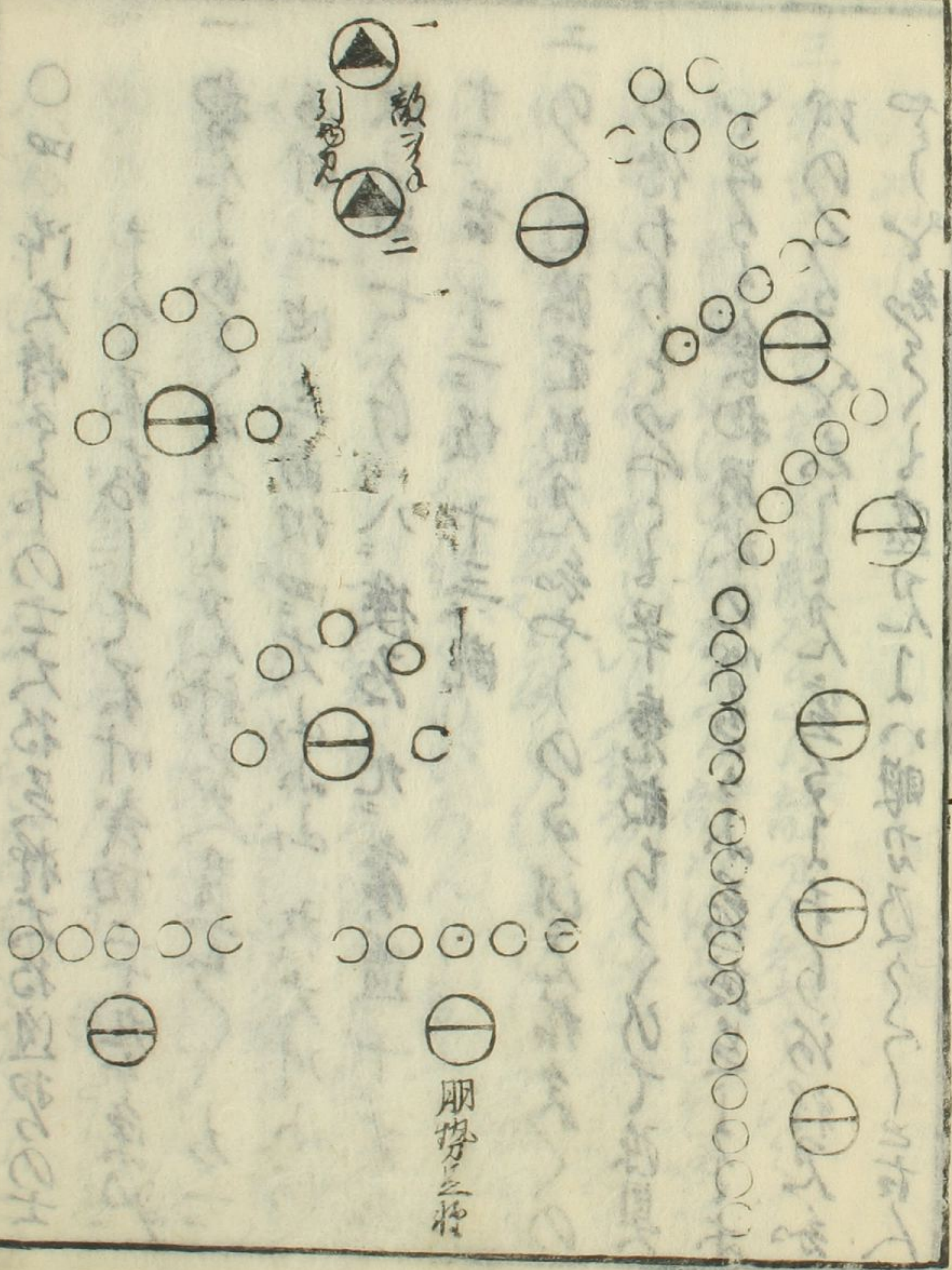
動奇あつて此時相見よお足不入そ人教と平
 押よせよとあつとく一の家牌とあつとく一足
 一よつとあつとく一とくわひつとく一
 一をけまいさ物とく一とく一とく一とく
 一お着とく一あり相又相着のこととく一
 一とくお着の相分と一とく一とく一とく相
 一 圖の相見の人教押の時先後より攻め相と
 一 若らり又よ伏野攻めとく一のお着と攻取虎は
 一 敵の相圖と山と敵ひよ山乃麓と攻とあつ
 一 一を龍攻よ一合戦攻とく一むらとく一あり
 一 あり攻一物入一と相見とりの川に相見

一 燈も桐葉のふ籠とあり
 一 敵と引物見のる、桐葉の足燈一と巡り
 人つて是邊足燈あり

一 一の郷村二よ山林三よ谷八かやうよ
 ころあり

敵と引物見のる

桐葉のふ籠とあり
 敵と引物見のる
 桐葉の足燈一と巡り
 人つて是邊足燈あり
 一の郷村二よ山林三よ谷八かやうよ
 ころあり



○四 渚大將を下の士大將は將大將道智の士
 まで不敵して不叶哉切二十九ヶ条の
 一 惣見よ物く中一よ見針多へ負てくくち二
 ちけ二池三田切四大山小山 五三大川小川
 六三系七うけ八三獲乃九三廣道十三本立
 十一番十二坂十三三龍

二のく敵除不敵見知やうのりけ見格久くの
 お傳わりとつとも畢竟敵ちくひて殊異
 とろろ食物用水の心もろく小病結足くく木
 攻のくろくをえりく見定くく一わり河獲見か
 やうと知くくも遠見くく一ハ眼力及くくく一と古人

乃習一

三 戰場に於ておろ敵をくく敵見知やうのり
 かゆ敵を油にけりえさる敵ハ油をむき味方
 のわひつちあわく有とくく相あり故一者取相
 ひり人くくろ言通とくくむくむく一わり子細くも
 のくく心筋と組子のかろん一察よ一ハ依
 據物とけりん一不敵油を法人海法の心河
 けく有くハ油濁り物とそ能くくくたる故も一有
 取相めくくく凡ハるちまのりあさりと古人云
 四 油とくくくこのりの色見知やうの事 陽くくく
 人爲くくくくくくくくくく深淵とくくくく

とくぞんぞりとしてけしきくう守源山のか
まあるがごとく清くつるゆの色は麦木の叶
よあひそらうがごとくあせり目にかの身といふ
利文人の口とそくくがごとく頼づらり一氣何
かごとく前より下いわけううのこく一歩のんわ
びせりわらゆいそらりちひ清ゆといふ也
みちのちゆ清きとゆえんおあらず 居ささゆといふ
いたと入ゆはあそらへるなりそきほくよ合戦も
いづく三の軍やとく心けけと先之成疎順逆
りゆらゆとあひあるとはりふあり又居るゆと
いふいたと入ゆの色も濁りもせよわらぬ故り

ゆいもせよ一重二重あいて一かきくも
とりのちそらうとくそそゆといひあり

六 敵の陣わくくわく攻め分事 一も陳あひ
る一心あいて洗お印張かひ貝乃有割成と
平場とゆいへくひる身の場と陰地と受
てうけあひよ勞せひ是大抵一も陳あひの
ゆり悪くもなそ

七 ^{まが}敵のゆいへくわく攻め分事 一も陳あひ
一かきくもせよ一重二重あいて一かきくも
割まらそ事ふりあひもゆといひあり
しう右のえゆへり右のゆいり中ゆへり三のえ

しりて是より後一我由とせし別の事へは
仕らざるを仕ひつゝくはものもなきあり
是とわくは由とはりあり

是か一由のしりありとせんとの縁その
敵の法令を制あり時一隙くおんといふ
ありり事よいわくはの善悪と見定る
やうい由の法濃厚為進退難し

八ゆりがゆり敵の方と為定る個儼うんあり
是の山林若合るしとく不計敵におわし敵
小將をれは由と立合戦と持刺を由といひ
或は敵と揚旗取おきしをも方と為定る

我の大将とさひひしんとすは秋意あり
そは虚実取見ありとの事ありか指の不言
し良將のわんさるりのられは善細備する
よ不乃平

九敵の人数くは敵法後を内通あり
一敵よ向て牙し由と立おんの時しりその
洞小相圖あり

是の戦場しりおんし敵の人数見計す
て法軍の陣取しり清大指しり時あり
あり銀の二方と見ればを方又千或は六千計
もる中しり相するは徳意の大指し二方と見

孫是ハ沛大和と内通してのるあり

云ハ後敵の地利も他のもを依る軍しくそ
勝るれハ合戦してハ方乃勝利一ツも
少勝ありを重く教ひても可討死と謂候
大敵とハ不思ふなり一ツ戦の止是大和の威
力と申ハ御事なり或ハ又申すも
そと申す大和人数と思ハ人ハ
ありと也 云大敵なり地利も敵ハ
世ハハ方利とハ先味方ハ
ひとく兵隊引入或ハをそと申すもハ必勝乃
利とハ合戦と申すハ正重ハ

らハ平場とハ一ハ一曲とハ
るけり

十敵の強ありと刃を
て伏兵と垂て
しめそと申す
偽ありと刃を

士敵の人教見積
物見しと申す敵の人教何程と刃切一
十と後ありあけて刃よと申す
の刃ありハ後立
あり

十二 何儀し如て敵の人殺せ見積ふりり終三の
是ハ本書三者乃中の大遠の刃やうるら終
路と一町と目あるし志て一町と何程の人熱
みことりりて志あり

十三 敵國或を敵除うく働て大はもよ敵ある
河川越又不足越と見知るが但是ハ敵よよりて
あり

十四 他國へ働入川より一海船とあり
十五 舟り田乃足へ見志事

十六 海意へ敵のうらふ地又うらまうし或地
不見知事

十七 城の堅固不堅固見志る人志事

十八 城より敵うつる不おも刃くあふる

十九 城より場り事

二十 城よりわらうしと見志る事

二十一 城より乃物かんようまりのうらあやうのり
事とむまうし事

二十二 足将大お物見し中一わ場と穿撃とらる
のくしとわらうしも所要あり 二十三 本行乃

無事り場り松原 二十四 池より海舟
四つゆり場の松田とれらうしと古志事

又敵の物かんはあり 六敵お對由今カヒのさあり

七、方方は遠道

二三敵方強弱の様子評大指下し知るの事
四敵方これ者既察せられしとて評大指下
尸上事

十五、よくいり押寄り敵の上にお供いり進ませ
と刃ある事

十六、敵國へともくき入川わたりしを原石を
川の上の松子とい水出成をともく下流
考れ事

十七、徒ら沖使よりやうし行所事
十八、世に護海のり護の事

十九、戦軍の勢は如何の事

○五 戦中相刃しお二方の刃遠なる事

一、戦中よまの刃とつぎ敵らしく思ひいり好
水と刃らうり水の上一目と付りやう刃
まけ好度よ少くも七八分をまきやう
刃ゆる相ありむらひの去并一目と付り

二、敵除る事の先は如何の先使れこと
指物除り刃と刃とよく方方の先使を敵合
いする遠しとい先火しやうつりて敵をくす
責しやうむりしとくよみありのられぬ先使
の除場をくのつりらして刃をくす

三月秋のけり或は城内出るるもどに馬よりのて解
の木材本等も敵のゆつちやうよみありその也
それと見定るよ木柵のまわうとくはなうとく
大なるもそらうか人いると不指りけの敵に
見計あへ

○六 物見よおみつのまことと見定る物のまへ
視観察ふ物見番は事

才一 見崩 才二 裏崩 才三 女器
才四 陣崩 才五 懸愷

左と見定る物を才一大備よて區くはななく
鳥噪けけとくはななくはななくはななく

一 視観察の物見の事

かまがらと見みひのさうわらうとん
そらうとらひと見らひとらうとらう
里まらと見めとらうとらうとらうとらう
つらうとらうとらうとらうとらうとらう
霜とらうとらうとらうとらうとらうとらう
かまのうとらうとらうとらうとらうとらう
一 物見番しつらうとらうとらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらうとらうとらう
日馬よとらうとらうとらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらうとらうとらう

○七 物心成者其功十四ヶ条の事

一 義の道を知る 天地の有りたる事一として
も防不るくそ道とす其能成者へそ任す
と心はそをを知らず其るよとてふのて相察
をれば務りたるをりこれと為のみち
とをりしりたるり 云天地の有りたる事
防不るくとらんとは十条よりして百家の
後物心成者一也一や又これ例の軍法をの深
密なる大と收てんよとてさるるんの能りそり
二 勇怯を知る 兵法曰人有勝心惟敵
之視人有畏心惟畏之視ト云

云天地の理と疎なるく知るるの何そ勇
と難るるを收よせんや又勇力怯るるは
つらりの何そ天地の有りたる理よとてかん
やれば大智大勇の人と收てんよとてさるる
切し有儀るり又例の能夫と收て
三 心のつ身所一ありとけく厚ん事
四 見とるる以んる事
又さるるをさるる事
六 敵の攻めとけりるる事 実不實をさるる事
兵法曰無約請和者謀也 言無約請和者夫
軍欲速和必其勢之不相敵故約和以休士今

未之有約而驟請和者必其詐降以怠其心也
 七敵のこころをさうよして遠慮入る事
 八敵をたすやうと刀のこころ
 九敵當年をたすこころを以て重ら又こころ
 十軍場の地勢を善悪と見定む事
 十一敵合戦のついでに攻め入る事
 十二敵者來りよふ別お道のついでに攻め入る事
 十三強攻もわくまのついでに攻め入る事
 此法よく可定事

大中小三段物見 初後三者
 初後三者 輿物目付 遠信相
 見 發見見分

物見 私之物見ト云遠候付候外ヲニリ未
 見 ヲハカリ来来ヲニルヲ云ナリ

大中小三段物見 初後三者
 初後三者 輿物目付 遠信相
 見 發見見分

實ヲ見 敵ノ動靜ヲ見 敵ノ入敵見積 覆候
 有無ヲ見 河出不出ヲ見 川ヲ隔ル敵然不然

ヲ見 河渡リヲ見 海邊ニ敵可上地上ルニキ地ヲ
 見 厚備薄備ヲ見 城ノ堅固不堅固ヲ見

寄口ノ善悪ヲ見 城ヨリ出ル敵不出敵ヲ見

八重カニリライトフ物見 捨カニリ 夜軍物見
萬ノ道ヲシテ 勇怯ヲハナル 心付見所ヲ見
所所ヲ聞 敵ノ動様ニテ遠慮 敵ノ退様ニテ
遠慮

○ハ小力の士可存心持り事
兵法曰善陣不戦能戦者不死ト云ふ事あり
そとくそとくふとりの敵より中味を
見合せうをく時を大死もあく人をもさの
こころれをそとの柄金一戦の指子の前ひ
つらとりつぐぬびそわひをさといふ事あり
方より入の時と柄と極めをく引取時あんなり

ととれつとわよくあり又敵方方地へ事
の敵の甲乃吹かすは目と付らさう上若物の
持さるるわとば二つといふく考へ置あるとひ
久かどらんあるとわあへー又矢道とあると
所置なり
敵より先方方と見合さるる事 是方とたると
あつてひよりとんさるとくはやくあさるとたよ
いあつとをいんとたれび一人たさうとあつと敵
攻らつとをひくもあつとをたつたの合戦勝利
の用よりまきと故は場をうけても是名陰し
軍法背とひあ又付死とる時の敵のさつと方方

七十一

金言七言卷一
七
此處を縦大乳なく又柄とつらふとて是を
能と兼とこれの法令不立由大為の女成とい
つらく習う也

力方源入の時自力の女柄と處めて故筋乃
事 扱してちんぐりの一番陸又の城攻一番の
つら強きよりだのうん上るる大なるの法人
といひてあくもれとせ敵のつらひのて逃かふと身
成捨たしつらひのせよせも勝利と令さる故也
甲の吹たしつらひの目とつらひの盛るるといひつらひの強
と目利してつらひの目とつらひの目とつらひの目とつらひの目
らつらひの敵よりつらひの目とつらひの目とつらひの目とつらひの目

危し故しあつらひとて盛るるとつらひのて標合ら
うらつらひの不意とつらひの目とつらひの目とつらひの目とつらひの目
ぬらひ

○九小力の士可存急武切十七ヶ條のつら

- 一 甲此結のちめやう忠のの紐つけぬうは事
- 二 具足乃下着上帯下帯紅やう乃る
- 三 くらん沙くのい合香於神保毒虫不事奉付り
雄黄

四 布可扱ゆるもの女編成をさつらひとつらひ
し格拘系よ入

五 ありあけはわうは事

六合戦場にて後可拵せしめりての事あり

七表のたてしめりての事あり

八しるしめりての事あり

九朱 十一番番敷 十二もろり息合

十三摺火うち 十四氣付

十五血あめ 十六血あめり 十七疾くう厚く

累本匹丈切 松云自身動キヲナスモノ
心カクヘキ作法ヲ云ナリ 目付所味方ヲ見 武者終行

時ヲ知 備ヲ備 場ヲ不離 矢道ヲ知

證拠ヲトリ 證拠ニタツ

生云僅拙とらるる事理合し一は道頭元攻し

櫻ららざりて人の力ぬ地よして討ねし用る事
けししの證拠は用ふ事あり一戦の場中の働あり
敵方方々勢を絶つて軍の法は一は道頭元攻し
たてしめりての事あり一は長進して後部
ゆられし中の一は遠慮ありとてしめり
竟合戦の人多く敵して敵はき方方威
とすしよしちし討の勝て場と端切れの威力
一は幕らよん也ゆりよんる事あり一は
て遠く人よんて僅拙とらるる事あり
是士の心ありんや同じく進む事あり
い證人わらんか とうとうは證人も證と

金部抄書卷之十

廿六の膳利の用一はしむは法と背匠の飛

科ととも具一は裁切之をよる

具本

盤石身出立

志ノ緒留様 下着 下帯ニヤウ
腰ノテニヤウ 鋸ノ長短 同持様

メンホウス子アテ用捨

信玄全集未書卷之十

